

合意課題が保育園勤務者のコミュニケーションと職務に与える影響

The Impact of Consensus Tasks on Communication and Work of Nursery Workers

有沢 孝治

Koji ARISAWA

東海大学

TOKAI UNIVERSITY

Key words : 合意課題、コミュニケーション行動への気づき、保育園勤務者支援

問題と目的

保育者のコミュニケーション行動や人間関係に係る問題が近年注目されている(杉山 2018、白取ほか 2021)。筆者も社会福祉法人等から保育園で働く人たちのコミュニケーションについて相談を受けることが多い。保育園で働く人々のコミュニケーション問題の改善は喫緊の課題と言える。そこで本稿では、保育園勤務者(保育士、栄養士、調理師、事務職)のコミュニケーション行動をふりかえり、コミュニケーション能力の育成に寄与するとされる合意課題(2003 有沢)を実践し、保育園勤務者のコミュニケーション行動と仕事への有用性に合意課題の体験が与える影響について検証する。なお本稿は、有沢(2024)の一部を取り上げ、加除した内容である。

方法

20XX 年に A 保育園に勤務する 13 名(平均年齢 41.1 歳、平均職務経験年数 9.1 年)を対象に合意課題を行った。合意課題は、Hall & Watson (1971) の NASA の課題をもとに設計した。月面での遭難状況において用意された 8 品目に優先順位を個人でつけ、その後小グループ(4~5 名)で合意し、最終決定するという内容である。グループ内の討議を活性化するために次の 5 つのルールを設けた。①すぐにあきらめて他人の意見に従わない、②自分の意見にこだわり過ぎない、③多数決をとらない、④中間(平均)をとらない、⑤取引をしない、である。また、このルールに加えて、論理的に考えることも大切だが、メンバーの感情にも配慮することを伝えた。

調査は、合意課題の体験後にフェイスシートと RSCCTP (9 項目 2 因子 5 件法 : 有沢 2016) への回答及び自由記述で日常業務に合意課題の体験が役に立つと思うかを尋ねた。RSCCTP の因子は「コミュニケーション行動確認・改善」(以下、「Co 確認・改善」: 5 項目、中点 15.0) と「職務への有用性」(4 項目、中点 12.0) である。分析には、エクセル 2016, js-STAR XR+ release 2.3.0j を用いた。なお、調査協力保育園と調査協力者の同意を得て調査を行った。

結果と考察

合意課題を体験した保育園勤務者の「Co 確認・改善」と「職務への有用性」の平均得点をみると、いずれも中

点以上であった (Co : $m=20.15$ 、 $SD=2.58$ 、職務 : $m=16.08$ 、 $SD=2.33$)。保育士 (8 名) と非保育士 (5 名) にわけてみてもいずれも中点以上であった (Co 行動確認・改善、保育士 $m=20.0$ 、 $SD=1.60$ 、非保育士 $m=20.4$ 、 $SD=3.91$ 、職務への有用性、保育士 $m=15.6$ 、 $SD=2.07$ 、非保育士 $m=16.8$ 、 $SD=2.78$)。次に、保育士 (8 名) と非保育士 (5 名) で各因子の平均得点の差を t 検定により調べた。2 因子とも平均得点に有意な差はみられなかった。さらに、職務経験 10 年未満 (以下、若手とする。 $m=3.1$ 年、7 名) と 10 年以上 (以下、ベテランとする。 $m=16.1$ 年、6 名) で、因子ごとに平均得点の差を t 検定により調べた。Co 確認・改善 (若手 $m=21.4$ 、 $SD=2.15$ 、ベテラン $m=18.7$ 、 $SD=2.34$) では $t=2.22$ 、 $p<.05$ 、 $d=1.20$ 、職務への有用性 (若手 $m=17.6$ 、 $SD=1.81$ 、ベテラン $m=14.3$ 、 $SD=1.51$) では $t=3.46$ 、 $p<.05$ 、 $d=1.98$ となり、いずれも平均得点に有意な差が見られた。自由記述では「意見を押し付けないこと」や「お互いの意見を尊重すること」などを体験的に学び、仕事に役立つことが述べられていた。

以上のことから、被験者数の問題はあるものの、合意課題の体験は、保育園勤務者自身がコミュニケーション行動を確認し、コミュニケーション上の課題を見出すことができ、仕事に役立つ活動と受け止めたと推測できる。また、このことはベテランよりも若手により強くみられた。今後は、日常の会議後と合意課題体験後での RSCCTP 得点の比較や、合意課題体験の効果の持続性について検証したいと考えている。

参考文献

- ・有沢孝治 2003 「合意課題の実践によるコミュニケーション能力の育成に関する検討」『東海大学紀要教育研究所』第 11 号, pp.105-120
- ・有沢孝治 2016 「職場におけるコミュニケーション能力の育成プログラムの実践とその評価尺度の作成—保育職を対象とした活動の分析—」『東海大学紀要文学部』第 105 輯, pp.77-93
- ・有沢孝治 2024 「合意課題はコミュニケーションの問題の改善に寄与するか—保育園勤務者を対象とした検討—」『東海大学教育開発研究センター』第 9 号, pp.65-73
- ・Hall, J. & Watson, W. H. 1971 "The effects of a normative intervention on group decision making performance." *Human Relations*, 23 (4), 299-317
- ・白取真実・齋藤恵子・小島道生 2021 「保育者に関するアサーション研究の動向と展望」『帝京短期大学紀要』No.22, pp.55-64
- ・杉山喜美 2018 「保育者の専門性としてのコミュニケーション能力—初任保育者を対象とした調査結果を踏まえて—」『東海学院大学短期大学部紀要』44, pp.7-22